

# TOPPAN

CSRレポート 2010  
トッパンの社会的責任活動報告  
ダイジェスト版

110<sup>th</sup>  
anniversary



本ダイジェスト版は、より多くのステークホルダーの皆さまへトッパンのCSR活動をご紹介するために、2010年8月に発行した「TOPPAN CSRLレポート 2010」から情報を抜粋して作成しました。活動の全体について詳細な情報をご希望される方は、下記ホームページより「TOPPAN CSRLレポート 2010」のPDFデータをダウンロードいただくか、冊子をご請求ください。

<http://www.toppan.co.jp/csr/csrreport.html>

## 会社概要

社名	代表取締役社長
凸版印刷株式会社	金子真吾
TOPPAN PRINTING CO., LTD.	従業員数(単体)
本社所在地	8,769名(2010年3月末現在)
〒101-0024	従業員数(連結)
東京都千代田区神田和泉町1番地	47,650名(2010年3月末現在)
電話 03-3835-5111(代表)	資本金(単体)
創業	1,049億円
1900年(明治33年)1月17日	

## グループ概要

トッパングループは、凸版印刷株式会社(当社)および関係会社202社(子会社177社、関連会社25社)で構成されており、情報・ネットワーク系、生活環境系およびエレクトロニクス系の3事業領域を中心に幅広い事業活動を展開しています。

トッパンおよび関係会社の当該事業に関わる位置づけと事業の種類別セグメントとの関連は「TOPPAN CSRLレポート 2010」をご覧ください。

## 対象期間

2009年度(2009年4月～2010年3月)を中心に、一部同期間の前後を含む。

## 報告対象範囲

原則として、凸版印刷株式会社および会計上の連結対象組織の社会活動と環境活動について報告をしていますが、人事関連データは原則として凸版印刷株式会社単体です。また、環境データは、凸版印刷株式会社および国内製造子会社29社の計30社分の合計です。

## CONTENTS

トッパンのCSR	2
トップメッセージ	3
特集1：生物多様性の保全と持続可能な利用	5
特集2：印刷技術による医療分野への挑戦	7
お客さまのために	9
社会・地域社会とともに	11
社員とともに	13
取引先とともに	15
環境への取り組み	16

## 事業領域

### ●情報・ネットワーク系

円滑なコミュニケーションを求めめるお客さまに対し、「情報の価値を高める」「情報を効果的に届ける」ソリューションを提供する事業領域



証券・カード部門



商業印刷部門



出版印刷部門

### ●生活環境系

医・食・住を中心としたさまざまな生活シーンに対して、心豊かなくらしづくりに最適な製品とサービスをグローバルに提供する事業領域



パッケージ部門



高機能部材部門



建築材部門

### ●エレクトロニクス系

先端技術を結集し、デファクトスタンダードとなるようなエレクトロニクス部品を提供する事業領域



ディスプレイ関連部門



半導体関連部門

### ●パーソナルサービス系

人とモノをつなげる革新的な情報サービス・情報デバイスを、独自ブランドで生活者へ直接提供する事業領域

### ●次世代商品系

将来の成長が見込める事業分野を開拓し、次世代へつなげる高機能産業材を提供する事業領域

# トッパンのCSR

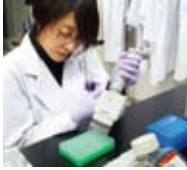
21世紀のトッパンのあるべき姿である「TOPPAN VISION 21」は、めざすべき企業の姿としての「企業像」とそれを実現するフィールドである「事業領域」からなっています。企業像は、「企業理念」「経営信条」「行動指針」の3つで構成され、トッパンが社会や環境と調和しながら成長していくための基本的な考え方や活動の方向性を定めています。これを実現することこそがトッパンの社会的責任(CSR)にほかなりません。

企業像の実現に向けた活動の具体的な対象となるステークホルダーを「お客さま」「取引先」「社会・地域社会」「社員」「株主・投資家」の5つとし、ステークホルダーとの対話に基づき、優先して取り組むべき8つの推進テーマを定めて活動を推進しています。

## ●お客さまのために

### 製品安全と品質保証／社会の課題解決に貢献する製品・サービスの提供

研究・開発・生産・流通の全工程で品質を保证する「総合品質保証」を推進しています。また、印刷で培った技術を用い、社会的課題解決のための製品・サービスを開発しています。



## ●取引先とともに

### 信頼のサプライチェーンづくり

トッパングループ「CSR調達ガイドライン」に基づいて、取引先と協働し、CSRに対する理解・浸透と実践をサプライチェーン全体に展開していきます。



## ●社会・地域社会とともに

### 社会、地域、文化への貢献

情報・文化の担い手として、文化の発展や社会的な課題の解決に貢献する活動を行っています。また、事業を展開する世界各地において、地域との共生を図っていきます。



## ●社員とともに

### 人財の尊重と活用

従業員を会社の貴重な財産「人財」ととらえ、多様な人財が安全で安心して働ける職場環境を提供し、開発・育成と適切な処遇によって「働きがいのある会社」をめざします。



## CSR 8つの推進テーマ

## ●株主・投資家とともに

### 公正・公平な情報開示と透明性の向上

経営活動の内容を公正・公平に開示し、透明性の向上に努めます。



### 情報リスクマネジメントの推進

お客さまからお預かりする情報の安全管理は、私たちの至上命題です。社内外に存在するさまざまなリスクを認識し、情報漏えいを防止する強固な管理体制を構築しています。



### 法令と企業倫理の遵守

常に法令を遵守し、企業倫理に沿った行動をとるべく、国内外の事務所においてその指針となるトッパンの「行動指針」の浸透と徹底に取り組んでいます。



### 地球環境の保全

持続可能な社会の実現に向けて、「トッパングループ地球環境宣言」に基づき、事業活動で生まれる環境負荷を低減する活動と、環境配慮型製品・サービスの開発・提供に取り組んでいます。



# 「ふれあい豊かなくらし」に貢献するために

## 110周年を迎えて

リーマン・ショックに端を発した2009年度の世界経済の危機的状況は、主要国が実施した大規模な景気刺激策などが功を奏し、緩やかではありますが、回復基調で推移しました。しかし、我が国においては、一部に持ち直しの動きが見られたものの、個人消費が伸び悩むなど依然として厳しい状況で推移し、本格的な回復には至りませんでした。このような状況下、トッパンは「聖域なき改革の断行」「グローバル対応の加速」「グループ型経営の強化」の3つの柱による収益力の向上に努め、業績を回復することができました。

さて、トッパンは、お客さま、株主・投資家、お取引先、地域社会の皆さま、そして社員といったさまざまなステークホルダーの皆さまに支えられ、お陰さまで本年6月に創業110周年を迎えることができました。

創業以来、「印刷テクノロジー」を軸に事業展開を行うことで、企業理念にかかげた「情報・文化の担い手として、ふれあい豊かなくらしに貢献する」ことに邁進してきましたが、現在においては、情報流通のデジタル化の進展、海外新興国の経済成長、国内における少子高齢化など、私たちを取り巻く市場環境が日々急速に変化を続けています。

創業110周年を迎えた本年6月、私は代表取締役社長に就任しました。私は、これらの市場環境の変化を、将来にわたって持続的に発展していくための『変革と挑戦』の最良の機会と捉え、「事業構造の改革」「グループ経営の強化」「グローバルな事業展開の加速」「新たな事業の創出」の4つを柱とする取り組みを推し進めることで、さらなる発展に向けて努めていく所存です。

## 持続可能な社会の実現に向けて

しかしながら、企業は決して単独で持続的に発展していけるものではありません。企業は、社会との関係の中

ではじめて存続できるものである以上、社会の持続的発展を支えていくこと、これがまさしく企業の社会的責任である、と私は認識しています。

トッパンでは、「TOPPAN VISION 21」をすべての企業活動の基盤としています。「TOPPAN VISION 21」は、守っていくべき価値観と規範を示した「企業理念・経営信条・行動指針」からなる「企業像」と、これに基づいた「事業領域」から成り立っています。

私は、環境や社会と調和しながら成長していく姿を表したこの「企業像」を実現することが、トッパンの社会的責任であると考えます。

私は、今まさに、持続可能な社会の実現に向けて、トッパンの社会的責任をしっかりと果たしていきたいという強いおもいを新たにしているところです。

トッパンは、2006年9月に「国連グローバル・コンパクト」に参加し、人権・労働基準・環境・腐敗防止にかかわる10項目の原則を支持することを表明しました。トッパンの社会的責任を果たしていくうえで、この「国連グローバル・コンパクト」を大切な指針として今後とも継続的に支持し、社会的責任活動を推進していきます。

## 社会的課題を認識し、その解決に向けて

私は、持続可能な社会を実現していくうえで、社会が抱える問題、すなわち社会的課題を事業を通じていかに解決していくかが大変重要であると考えています。

グローバルな視点で捉えれば、地球温暖化問題や経済的格差問題のほか、貧困・飢餓の撲滅、ジェンダーの平等と女性の地位向上、乳幼児死亡率の削減、HIV/エイズ、マラリアその他疾病の蔓延防止など、国連と国際社会が取り組む「ミレニアム開発目標」に掲げられる幾多の社会的課題があります。また、国内に目を向ければ、少子高齢化問題や食の安全といった課題が山積しています。

私は、このような課題の解決に向けたイノベーションが企業の持続的発展の足がかりとなり、それが持続可能

な社会を実現するための近道になると確信しています。

トッパンは、地球環境の保全というグローバルな社会的課題に対してその取り組みをより一層強化するため、「トッパングループ地球環境宣言」「環境管理規程」の下に位置づけられる「地球温暖化防止細則」「循環型社会形成細則」「化学物質管理細則」「公害防止細則」「生物多様性細則」以上5つの細則の検討と整備を行い、2010年4月1日をもってこれを制定しました。今後は、この細則に基づいて、各分野ともにより強固な活動を行っていきます。

とくに、地球温暖化防止については現在推進している事業構造の改革と連動し、全国の事業所における生産を最適化・効率化することで、より一層の二酸化炭素の排出削減に努めます。また、生物多様性についても、紙資源の調達や土地の利用において新たな取り組みを進めます。

また、トッパンはこれまでの歩みの中で培ってきた微細加工、表面加工、成型、コーティング技術などを応用して、1999年から医療分野での研究・開発を進めてきました。この医療分野においては、2009年度に新たな遺伝子解析の手法を開発しました。後天的な遺伝子の変異が引き起こすがんについて、変異した遺伝子のタイプを低コストかつ高い精度で解析できる手法です。この手法は、患者個々人の遺伝子の違いに応じて、副作用が少なくかつ有効な治療法を治療の前に検討・選択できるようにすることを目的に開発したものです。

このような患者個々人に最適な治療を行う「オーダーメイド医療」を進展させることは、近年増大する医療費の削減という社会的課題の解決の一助になるものと考えます。

## ステークホルダーの皆さまへ

トッパンが社会的責任を果たすことは、社会から求められていることを自らが考えることにはじまりますが、それが独りよがりにならぬよう、ステークホルダーの皆

さまの声と照らし合わせてみるのが欠かせません。

今後とも、コミュニケーションの起点となる情報開示に積極的に取り組んでまいりますので、忌憚のないご意見をお聞かせください。トッパンは、ふれあい豊かなくらしを送ることのできる持続可能な社会の実現に向けた取り組みを継続し、「社会から信頼され、尊敬され、そのうえで強い企業」になることをめざします。皆さまからの一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2010年8月



凸版印刷株式会社  
代表取締役社長

金子真吾



## 特集 1

# 生物多様性の保全と持続可能な利用

原材料、事業所立地の環境など、企業の活動は生物多様性\*からの恩恵を受けて成り立っています。トッパンでは、生物多様性の保全と持続可能な利用に向けた取り組みを開始しています。

### 「生物多様性細則」の制定

2010年4月1日に「生物多様性細則」を制定しました。これは「トッパングループ地球環境宣言」および「環境管理規程」の基本理念に基づいた、グループ全体の環境保全への取り組みをより確実なものとするための細則の中の一つです。

印刷業であるトッパンの事業活動と生物多様性には、紙等の原材料調達、水の利用・排水、化学物質の排出、事業所が立地する土地と周辺的环境において深いかわりがあります。

細則では、紙については、生物多様性におよぼす影響の回避・最小化により持続可能な森林資源の利用に努めることを定めています。また、水や化学物質の利用については、これまで取り組んできた管理を徹底すること、土地を利用する際には事前に生物多様性に関する影響評価を実施することなども盛り込んでいます。

今後は、この細則を運用し、生物多様性の保全や自然

の恵みの持続可能な利用に、より積極的に取り組んでいきます。

### 製品の開発・販売

#### カートカン

カートカンは、用紙に間伐材を含む国産材を30%以上使用した紙製飲料容器です。「間伐」とは、森林の木々が込み合って木の成長が阻害されたり、陽のさしこみが悪くなって下草が生えなくなることによる土壌流出を防止するため、生長の悪い木などを間引いて樹木の間隔を調整することです。森林の健全な育成、土壌や水資源の保全は、多様な生物が生きる環境の保全や創出にもつながります。

カートカンは、2003年12月に全国森林組合連合会が認定する「間伐材マーク」を取得し、2004年4月には、「森を育む紙製飲料容器普及協議会(もりかみ協議会)」を設立しました。トッパンは林野庁やカートカンユーザーなど関係各所と連携しながら、日本の森林整備に資する活

#### 生物多様性に関する基本方針（生物多様性細則より）

- (1) 生物多様性の保全は、経営の一環であり、重要な要素と位置づける。
- (2) 原材料調達においては、生物多様性に及ぼす影響の回避・最小化により、持続的な利用に積極的に取り組む。
- (3) 生物多様性に関する社会貢献活動に積極的に取り組む。
- (4) 取組みにおいては、予防的・順応的な方法を用い、かつ長期的な観点を持つ。
- (5) 取組みにおいては、地域住民など生物多様性に関わる多様なステークホルダーとの連携に配慮する。
- (6) 生物の多様性の保全及び持続可能な利用は、地球温暖化の防止等に資するとの認識の下に行う。





動に積極的に取り組んでいます。

また、カートカン空容器をトイレトーパー「ECO-GREEN」にリサイクルするシステムを2002年1月に構築しています。「ECO-GREEN」はカートカン古紙を約50%配合しています。トッパンの2009年度の「ECO-GREEN」購入量は165,760ロール(約46.8トン)となりました。

### 森林認証紙の拡販

2002年5月に、国内ではじめて商業印刷分野におけるFSC CoC認証を取得し、トッパンのお客さまに森林認証紙利用のご提案を続けてきました。その後、証券印刷分野、出版印刷分野においても認証を取得し、幅広い分野でこの活動を継続しています。

## コミュニケーション活動

### 生物多様性EXPOへの出展

生物多様性に関する情報交流・連携や、事業活動の活

性を目的に「生物多様性EXPO 2010 in福岡」が2010年2月に開催されました。このイベントには、トッパングループの5社が協力して合同出展し、来場者や他の出展者の皆さまとの積極的なコミュニケーションに努めました。

### 団体への参加

生物多様性の保全活動を、産業界や官公庁の動向と整合した活動にすることを目的として、2010年4月から企業コンソーシアム『企業と生物多様性イニシアティブ(JBIB)』に加入しました。

<http://www.jbib.org/>

※生物多様性：生態系の多様性(森林、里地里山、河川、湿原、干潟、サンゴ礁など)、種の多様性(動物、植物から細菌などの微生物に至るまで)、種内の多様性(同じ種の中でも異なる遺伝子を持つことで、形や模様、生態などに多様な個性がある)のこと。人間は、多様な自然がつながり、支え合っている状態があってはじめて、自然の恵みを得ることができる。



カートカン



間伐材マーク



SA-COC-001196

© 1996 FOREST STEWARDSHIP COUNCIL A.C.

FSCの認証製品をご購入いただくことは、世界の森林の責任ある管理推進に役立ちます。

FSC森林管理認証は、FSC(森林管理協議会: Forest Stewardship Council)の原則と基準に則り、“適正な森林管理”を認証するための制度です。FSC CoC(Chain of Custody)認証は、森林管理認証を受けた森林の材を、製品の製造～流通の全過程で識別管理していることを認証する制度です。

## 特集 2

# 印刷技術による 医療分野への挑戦

印刷技術には、一般的に想像される印刷物の分野にとどまらず、新たな領域へ応用することが可能な奥の深さがあります。トッパンはこの技術を用い、医療分野への挑戦を続けています。

### DNA も一つのメディア

世の中には、テレビ、携帯電話、インターネット、新聞、印刷物など多くのメディアがあり、これらのメディアに載ってさまざまな情報が、企業や生活者の間を流通しています。トッパンは、創業から印刷技術を核に新たな分野への挑戦を続け、多くのメディアづくりにかかわってきました。

生命の情報伝達物質であるDNAも、遺伝子情報を載せたメディアの一つです。生物の設計図であるDNAには、そのすべての遺伝情報が暗号として収められています。この情報を正確に読み解くには、先端の技術が必要になります。「情報・文化の担い手としてふれあい豊かなくらしに貢献する」ことを企業理念に掲げているトッパンでは、この遺伝子情報を伝えるDNAを解析し、読み取った情報を医療分野に活かすための技術の開発も行っています。

### オーダーメイド医療の実現に向けて

オーダーメイド医療とは、患者個人個人の個性に合った最適な医療を行うことです。現在、投薬を行う前に患者の遺伝子を分析し、薬が患者に与える効果や副作用の有無などを判別し、適切な薬を適切な量だけ提供することが可能になりつつあります。

このような医療が日常の中に広がれば、効果が少ないと思われる薬や副作用の発生が予想される薬の投与を避けることができるので、患者の苦痛や不安を回避・軽減できます。また医療がさらに効率化され、医療費の削減

につながることも期待できます。

トッパンは、オーダーメイド医療の実現に向けた技術開発の成果の一つとして、独立行政法人理化学研究所などと共同で、投薬を行う前に患者の遺伝子を検査する「SNP\*チップを用いた遺伝子解析システム」を開発しています。

2007年度には、理化学研究所および(株)理研ベンチャーキャピタルと共同で、遺伝子の受託解析サービスや遺伝子解析装置およびチップの販売を行う、(株)理研ジェネシスを設立しました。

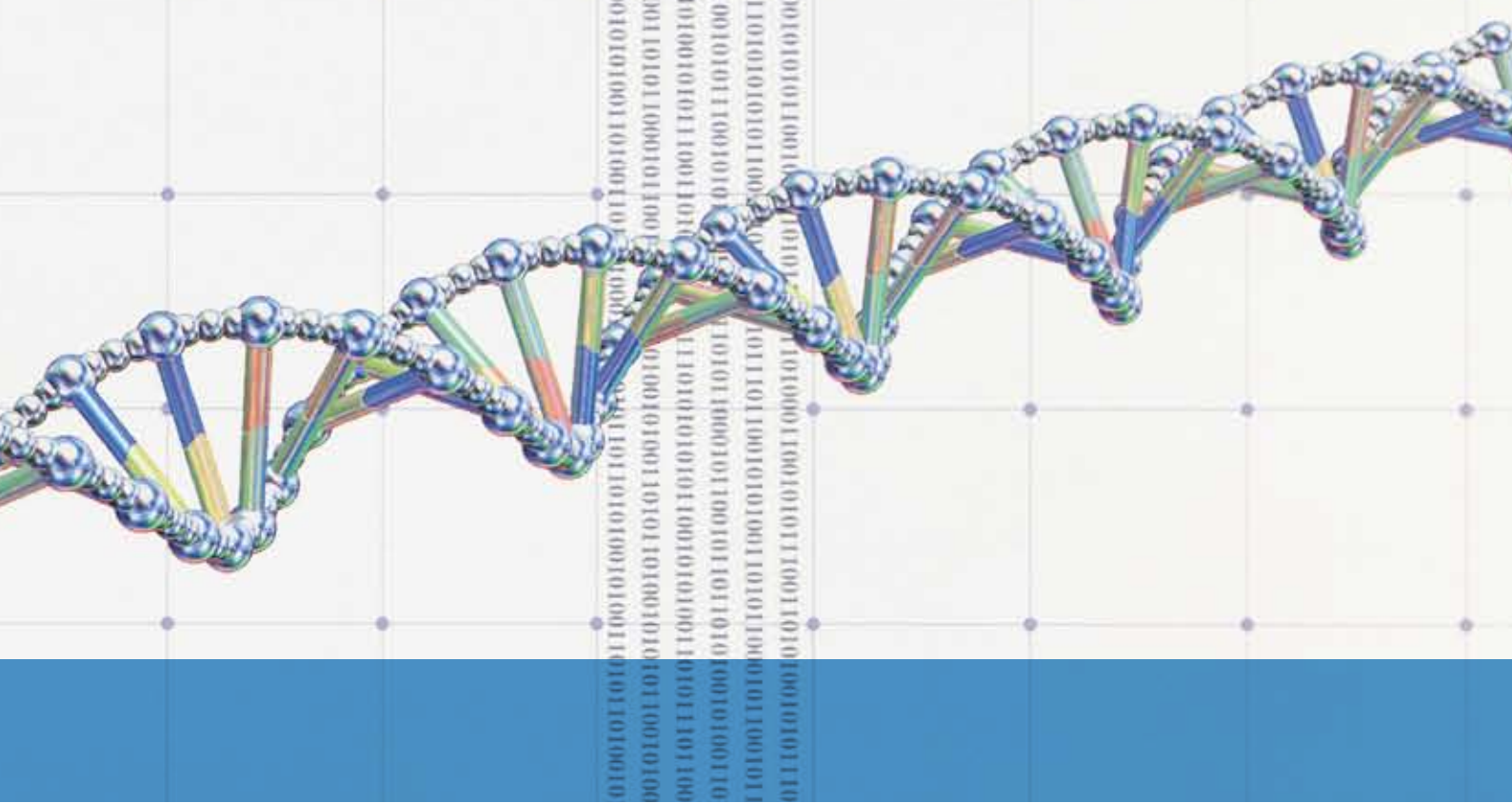
### がん組織の遺伝子検査新手法を開発

2009年度は、がん組織の遺伝子検査向けに、新しい解析手法「蛍光PHFA(Preferentially Homoduplex Formation Assay)」法を開発しました。この手法を用いたシカゴ大学との共同研究により、実際の患者から採取したがん組織のがんの遺伝子タイプを低コストかつ、高い精度で解析できることが明らかになっています。

現在、先天的な遺伝子の違いによる個人差だけでなく、後天的な遺伝子変異によっても薬の効き方に個人差が現れることが判ってきています。そのため、後天的な遺伝子の変異が引き起こすさまざまな臓器のがんについて、遺伝子変異と薬剤の効き目の関連を解明する研究が進められています。

また、がんの治療において、副作用を最小限に抑えることができる非常に有効な治療方法である分子標的抗がん剤が使われるようになってきました。しかし、同じ臓器のがんであっても、がん組織の遺伝子変異型の違いに





よって有効ではない場合があることも明らかになってきました。そのため、患者のがん組織を採取し、がんの遺伝子変異型を検査したうえで、有効性の高い分子標的抗がん剤を投与することが重要になってきます。

がん組織の遺伝子検査は、正常な細胞も含んだ検体から、がん細胞の遺伝子のみを検出し解析する必要があるため、既存の手法では感度が不十分で検出できない場合があります。また、遺伝子解析の方法が複雑で手間がかかり試薬自体が非常に高価であることなど、検査の高コスト構造も普及の障害となっていました。

この課題を解決するため、トッパンは新しい遺伝子解析手法である「蛍光PHFA」法を確立しました。新手法は原理が非常に単純で熱処理のみで変異解析を行うため、低コストでの検査が可能です。また、シカゴ大学との共同研究では従来の解析手法と比較して「蛍光PHFA」法の精度が高いことが確認されました。

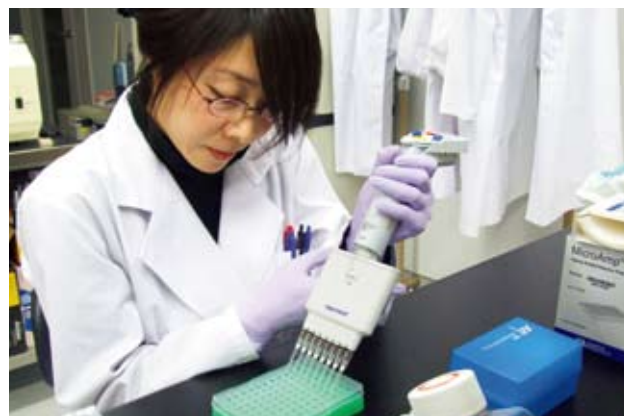
## 「蛍光 PHFA」法の普及をめざして

今後は、「蛍光PHFA」法をもとに、がん治療のための検査試薬を理研ジェネシスと共同で製品化し、販売することをめざします。また、検査の自動化装置の開発や、「蛍光PHFA」法のがん治療以外の分野への応用などを行っていく予定です。

なお、本研究の装置開発に関しては、2009年8月から2011年2月の期間で独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構の「産業技術実用化開発助成事業」に採択されています。



SNPチップを用いた遺伝子解析システム



「蛍光PHFA」法研究開発風景

※ SNP：ヒトには先天的な個人差がありますが、これは約30億塩基あると言われているゲノム塩基配列の違いに由来しています。その中でも塩基配列中の一塩基が各個人で異なっている箇所があり、それらはSNP (single nucleotide polymorphism: 一塩基多型) と呼ばれています。これらの違いが薬物応答性や病気のなりやすさなどの個人差を生むため、これらを検査することで、各患者それぞれに適した投薬や治療の実現が可能になります。

# お客さまのために

企画・開発から出荷までの全工程で品質を保証する「総合品質保証」に基づき、製品安全と品質保証に取り組んでいます。また、少子高齢化、環境などの社会的課題の解決に貢献する製品・サービスを、印刷技術によって開発しています。

## Feature : 1

### ユニバーサルデザイン(UD)への取り組み

#### トッパンユニバーサルデザイン宣言と

#### トッパンユニバーサルデザイン7原則

生活者の社会的倫理観の向上、「心地よい」など感性価値を重視する消費スタイルの広がり、グローバル化や少子高齢化などによって、近年UDの果たす役割が大きくなってきています。

そこで、2010年4月に、UDに取り組む目的と姿勢を定めた「トッパンユニバーサルデザイン宣言」を制定し、あわせて「トッパンユニバーサルデザイン原則(2001年制定)」を6原則から7原則へと改定しました。

これにより、わかりやすさ・使いやすさなどの機能性への配慮に加え、カスタマイズ\*の思想や感性への配慮を盛り込んだ活動体系へと再整備しました。

\*製品やサービスを使い手の個性や嗜好に沿ってつくりかえること

#### 各部門の取り組み

パッケージ部門では、これまでの使いやすさ・わかりやすさの追求に加え、心地よさをテーマにした包装材の企画・開発を強化しており、再封時に音の出るパッケージなどを商品化しています。

情報・ネットワーク系部門では、見やすく・わかりやすく、魅力的な印刷物の企画・開発に注力しており、「トッパンE-UD(広報ツール向けUD制作支援サービス)」や「ポップアップデザインカタログ」などを商品化しています。

また、利用者の課題を科学的に解明するために各種調査・分析サービスを提供しています。これをもとに、商品・サービスの開発過程に広く利用者の参画を求め、UDをともに創る姿勢を大切にしています。

<http://www.toppan.co.jp/ud/>



ポップアップデザインカタログ



再封時に音の出るパッケージ



「アイカメラ」を用いて、生活者の視線の動きを調査

## 総合品質保証

企画・開発から出荷までの全工程で品質づくりに取り組む「総合品質保証」を経営の最重要課題としています。

### 営業・企画部門における取り組み

総合プロデューサーとして、各工程へお客さまの要求を的確に伝達し、品質づくりをリードしています。教育テキストでは、安全な製品づくりや関連法を取り扱い、事業(本)部ごと、教育や事例共有などを行っています。

### 研究・開発部門における取り組み

総合研究所では、研究開発のスタートから成果物の製品化(デザインレビュー)まで、PL法などの法令に準じた製品安全が考慮される仕組みを構築しています。

### 技術・生産部門における取り組み

技術部門が最適生産条件を設定し、生産部門がさらに不良の出ない条件へと改善し、これをISO9001の仕組みで管理します。さらに、この仕組みが徹底されているか監査を行っています。

## 社会の課題解決に貢献する技術開発

印刷で培われた技術や製版技術を応用した微細加工技術、そして表面加工技術などの進化は、燃料電池の膜電極接合体、照明用有機ELパネルの「光取り出しフィルム」などの次世代製品の開発へとつながってきました。

### 燃料電池の膜電極接合体(MEA)

燃料電池は水素と酸素を反応させて電気を発生させる発電装置で、環境負荷の少ない次世代のエネルギーとして期待されています。トッパンは、独自のインキ化技術、コーティング技術、ラミネート技術を用いて、この燃料電池の心臓部である「膜電極接合体(MEA)」とセパレータの開発に取り組んでいます。MEAは触媒層と電解質膜を組み合わせたもので、発電効率や耐久性にも深くかかわっています。

2009年度は、燃料電池用新規材料開発のために参加しているNEDO\*プロジェクトで目標値を超える出力を得ることができました。

\*独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構

## VR(バーチャルリアリティ)による文化遺産の継承

### 「国宝 阿修羅展」でVR作品『阿修羅像』を公開

トッパンは、国宝阿修羅像の姿を高精細画像処理技術・色彩計測技術・三次元計測技術を用いて正確にデジタルアーカイブし可視化したVR作品「阿修羅像」を制作。東京国立博物館、九州国立博物館で開催され165万人もの来場者を集めた「興福寺創建1300年記念国宝阿修羅展」で公開しました。貴重な文化財をデジタル保存するとともに、VR技術によって阿修羅像を間近にさまざまな角度から鑑賞でき、文化財への理解をより一層深めることができます。トッパンでは、VR技術を文化財の新しい展示公開手法として位置づけ、数多くの文化遺産のVR作品の制作に取り組んでいます。



VR制作過程の画像

©TOPPAN PRINTING CO., LTD.



三次元計測技術によるデジタルアーカイブ計測・撮影協力：法相宗大本山 興福寺



# 社会・地域社会とともに

「情報・文化の担い手として」という企業理念に則り、情報コミュニケーション産業ならではの文化貢献活動や社会貢献活動に取り組んでいます。また、国内外の各事業所では、地域貢献活動やコミュニケーション活動を通じて、地域との共生を図っています。

## Feature : 2

### 東書文庫の所蔵資料が重要文化財指定に

トッパングループの東京書籍(株) 附設の教科書図書館「東書文庫」所蔵資料約14万点のうち7万6,420点が国の重要文化財の指定を受け、歴史資料の部の近代教科書関係資料として登録されました。

文化庁による指定理由は

- 近代の教科書関係資料として我が国でもっとも代表的な資料群。
- 文部省より移管された明治期を中心とする教科書や掛図、教科書会社として教科書製作の過程で残された資料(印刷見本・原画・版木)等からなる。

- 初等・中等教育の各階梯の幅広い教科について、明治初頭から戦後の文部省著作教科書まで、一連の資料が系統的に残る。
- 近代学校教育研究における基礎資料であり、我が国の教育史、出版文化史上等に価値が高い。(明治時代～昭和時代)

というものでした。東京書籍は企業の社会的責任を果たすためにも、引き続き所蔵資料の管理・保護に取り組んでいきます。

<http://www.tosho-bunko.jp/>



日本畧史



尋常小学修身掛図第1学年上

## 文化貢献活動

### 印刷博物館

企画展や、常設展としての総合展示を行う本展示場のほか、P&Pギャラリー、印刷工房、VR（バーチャルリアリティ）シアター、ライブラリーなどが併設されており、来館者数は開館以来29万人を超えました。

2009年度は本展示場で「近代教育をささえた教科書—東書文庫コレクションを中心として」展を開催しました。P&Pギャラリーでは、現代の印刷の表現方法やデザインをテーマに、独自企画中心の展示を行っており、2009年度は「グラフィックトライアル2009」を開催しました。

### トッパンホール

「感動の共有」をコンセプトに誕生した408席のクラシック音楽向けコンサートホールで、木のぬくもりあふれる優れた音響空間に高い評価をいただいています。

開館以来、世界的演奏家による公演から、若手の発掘・育成シリーズまで幅広く展開。2009年度は29回の公演を主催し、ウィーンの新世代ピアニスト ティル・フェルナーによる〈ベートーヴェン ピアノ・ソナタ全曲演奏会〉や、ベルリン古楽アカデミーの〈J.S.バッハ ブランデンブルク全曲演奏会〉など、世界の旬を紹介する企画性

の高い内容が話題となりました。

## 社会貢献活動

グローバルな社会的課題の解決に向けて毎年開催している「トッパンチャリティーコンサート」は、2009年度で3回目を迎えました。

このコンサートは、世界の子どもたちの識字率の向上に貢献することを目的に開催しており、収益を特定非営利活動法人国連UNHCR協会に寄附して、難民の子どもたちの教育資金に活用いただいています。

2009年度は、2010年3月5日と6日に開催し、2日間合計で2,339,000円を寄附することができました。

## 地域貢献活動

多くの地域で事業活動を行っており、各地域との共生も社会的責任の重要なテーマです。

国内外の各事業所が主体的かつ継続的に実施できる活動を基本に、事業所周辺の清掃・環境美化活動、献血、近隣の皆さまや子どもたちの工場見学、実習の受け入れ、災害時の協力体制の構築、事業所施設の開放、地域行事への協力・参加など、さまざまな活動を行っています。



近代教育をささえた教科書展



グラフィックトライアル2009



三浦友理枝〈トッパンチャリティーコンサート〉



徳永二男〈トッパンチャリティーコンサート〉



ティル・フェルナー  
〈ベートーヴェン ピアノ・ソナタ全曲演奏会〉



ベルリン古楽アカデミー  
〈J.S.バッハ ブランデンブルク協奏曲全曲演奏会〉



清掃活動

### 2009年度地域貢献活動実績

	事業所	参加人数
清掃・環境美化活動	31	14,375
献血活動	31	2,862
見学・校外学習受け入れ	26	1,367

# 社員とともに

トッパンでは、従業員を会社の貴重な財産、すなわち「人財」ととらえています。そして、「企業は人なり」という理念のもと、従業員が、「やる気」「元気」「本気」で仕事に取り組めるようにバックアップしています。

## 安全で安心な職場づくり

### 労働安全衛生

製造・技術部門と総務部門が連携し、労使一体となり、職場の本質安全化をめざしています。労働災害発生時には、随時、グループ全体で原因・状況を情報共有し、他事業所でも類似災害が起きないように、各事業所に合った対策を実施しています。

2009年度は、グループ全体では労働災害が減少していない現状を受けて、新たに、グループ各社の安全担当者を対象に、安全衛生管理体制の強化および個々のスキルアップを目的とした研修会を実施しました。

### メンタルヘルス対策

従業員のこころの健康の保持増進のため、メンタルヘルス研修、全社員を対象とする「こころの健康診断」、カウンセリングルームの設置、復職支援プログラムの導入など、未然防止から復職・再出発支援までの観点で、各

種の施策を展開しています。

2009年からは、アート（絵を描くこと）を通じて心身のリフレッシュを図る「アートサロン」を開始しました。年18回開催し、従業員からも好評を得ています。

### ワーク・ライフ・バランスの推進 (生産性の向上、次世代育成支援)

2008年10月より、労使で協力しながら長時間残業の撲滅に向けた取り組みを強化しています。仕事のやり方やマネジメント方法の見直し、部署内での業務調整、新たな勤務制度の試験導入などに経営層、管理職層、一般職層が一体となって取り組んでいます。

2009年度は、残業実態の分析、新たな勤務制度の活用状況の検証、改正労働基準法への対応に関する協議などを行いました。その結果、2009年度には、取り組み開始前の2007年度と比べ、長時間残業者の人数は約20分の1まで減少し、平均残業時間も10%以上減少しました。

次世代育成支援では、出産を機に退職する社員の再雇

### 職場の安全・衛生

	労災による死亡者	度数率 <sup>※1</sup>	強度率 <sup>※2</sup>
2007年	0名	0.39	0.01
2008年	0名	0.19	0.001
2009年	0名	0.09	0.003

※1 100万のべ実労働時間当たりの労働災害による休業災害件数で、災害発生頻度を表す。

※2 1,000のべ実労働時間当たりの労働損失日数で、災害の重さの程度を表す。

### 年次有給休暇の取得状況

	平均取得日数	平均取得率 <sup>※3</sup>
2007年度	7.7日	41.4%
2008年度	8.1日	43.5%
2009年度	7.7日	40.8%

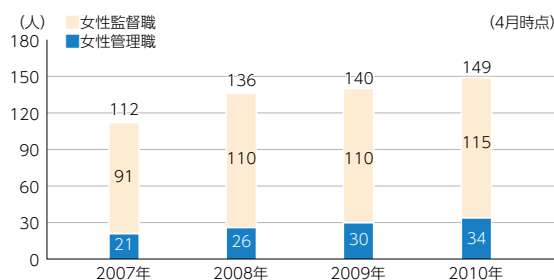
※3 平均取得率 = 平均取得日数 / 平均付与日数

### 産前産後・育児休業の取得状況

	産前産後休業取得者数	育児休業取得者数 <sup>※4</sup>
2007年度	37名	63名(2名)
2008年度	42名	74名(2名)
2009年度	45名	72名(0名)

※4 ( )内は育児休業取得者のうちの男性の人数

### 女性管理・監督職推移





用制度に登録した社員が、制度導入から3年間で15名になりました。2010年度からは、改正育児・介護休業法への対応に加え、年度途中の保育所入所が困難であるという実態をふまえ、育児休業期間を最大で1歳到達後最初の年度末まで延長しています。

## ダイバーシティ※5の推進

### 女性がいきいきと働ける職場をめざして

女性ならではの発想による新たな製品・サービスの提供は、お客さまや社会のニーズに応えるために欠かすことができません。

トップパンでは、女性の管理・監督職への登用を積極的に実施しており、2010年4月1日時点で149名(4.1%)の女性管理・監督職が活躍しています。

### セカンドキャリア支援

会社生活の「第二ステージ(セカンドキャリア)」で、長年の知識や経験、技術やスキルを活かせる体制づくりを行っています。定年到達後の再雇用制度「シニア社員制度」では、最長65歳までの雇用の場を提供しています。

2009年度は118名の定年退職者のうち、シニア社員、嘱託社員として72名が再雇用となりました。

#### ※5 ダイバーシティ

「ダイバーシティとは「多様な人材を活かす戦略」である。従来の企業内や社会におけるスタンダードにとらわれず、多様な属性(性別、年齢、国籍など)や価値・発想をとり入れることで、ビジネス環境の変化に迅速かつ柔軟に対応し、企業の成長と個人のしあわせにつなげようとする戦略」(日本経営者団体連盟「原点回帰 ダイバーシティ・マネジメントの方向性」(平成14年5月)より)

#### 障がい者雇用

	人員	雇用率※6
2008年	151名	1.83%
2009年	160名	1.90%
2010年	183名	1.89%

※6 雇用率は、「障害者の雇用の促進等に関する法律施行規則」第8条の規程による「障害者雇用状況報告書」で報告した常用雇用者数(6月1日時点)を分母にしています。

#### 人財育成に関する実績

	社員一人当たりの研修等費用	トップパン研修センター利用率※7
2007年度	41,300円	66.4%
2008年度	35,325円	59.2%
2009年度	41,789円	68.8%

※7 利用可能日数に対する利用実績日数から算出(子会社・関連会社の利用含む)。

## 障がい者の積極的雇用の継続

1993年に障害者雇用特例子会社「東京都プリプレス・トップパン(株)」を設立し、以来同社での雇用を中心に障がい者雇用を積極的に推進しています。2010年6月1日現在の障がい者雇用率は1.89%です。

## 人財の開発・育成

階層別研修や、職場に必要な能力・スキルの習得を目的とした研修を体系的に運用しています。新入社員は、入社後3年間で育成期間と定め、あるべき姿に育成するためのファーストキャリアプランを実施し、ブラザー・シスター(先輩社員)がきめ細かい指導で育成にあたります。

また、情報・ネットワーク系、生活環境系、エレクトロニクス系など、トップパンのノウハウを総合的にお客さまへお届けできる人財を育成するためのローテーションや、グローバルに活躍できる人財を育成するための研修や人財交流にも力を入れています。

2009年度からは、社内教育システム「Career Navigator(キャリア・ナビゲーター)」を稼働させ、eラーニングによる全社員教育を実施したほか、社員一人ひとりの教育情報を活用したさらなる自己啓発支援に取り組んでいます。



東京都プリプレス・トップパン(株)



サイアムトップパンパッケージングからの研修・技能実習生



グローバル化対応研修の様子

# 取引先とともに

トッパングループ「CSR調達ガイドライン」に基づいて、取引先とともに、サプライチェーン全体にCSRへの取り組みを広げる活動に取り組んでいます。

## CSR調達への取り組み

トッパングループ「CSR調達ガイドライン」を定め、取引先（原材料、設備、生産・加工委託、サービス・労務提供などの取引先）とともに、CSRへの取り組みをサプライチェーン全体に広げる取り組みを行っています。

ガイドラインは、「調達基本方針」と「CSR調達基準」で構成されています。「調達基本方針」は、調達業務にかかわるトッパンのすべての従業員が守るべき基本的な考え方で、「CSR調達基準」は取引先にその遵守を要請する項目です。この主旨をご理解いただき、協力いただくことが取引の基本です。

また、トッパンのCSR調達に同意いただける取引先からは、同意書と取引先におけるCSRへの取り組みに関する調査票をご提出いただいています。2009年度は、設備調達先にCSR調達への協力要請を進めました。

## 取引先における化学物質の管理

人体に影響を及ぼす化学物質の管理はCSR調達の中でも非常に重要な項目です。

トッパンの共通基準である「原材料含有化学物質管理基準」を制定し、取引先と連携して管理に取り組んでいます。2009年度は、社会動向や法令規則の変化に伴い、この基準をVer.2.0へと改定して、指定化学物質を38物質群としました。

また、食品や医療品のパッケージ、エレクトロニクス関連部品、銀行カードやクレジットカードなど、製品固有の管理が求められる事業分野では、共通基準に加え、固有の管理基準を定めています。

2009年度は、さらに、商業印刷物や出版物の分野にも管理を拡げました。

### トッパングループ「CSR調達ガイドライン」（2007年5月に「調達ガイドライン」より改定）

#### 調達基本方針

- 私たちは、すべての調達先に対して公平に窓口を開放します
- 私たちは、国内外の諸法規を遵守し、企業倫理に基づいた公正な取引をおこないます
- 私たちは、調達活動を通じて得た情報は厳格に管理します
- 私たちは、環境への影響に十分配慮します
- 私たちは、市場ニーズに応えるためQCD（品質、コスト、供給）を追求します
- 私たちは、CSRへの取り組みをサプライチェーン全体で推進します

#### CSR調達基準

1. 基本的人権
  - ①基本的人権を尊重する
  - ②従業員の処遇・雇用にあたり、不当な差別を行わない
2. 公序良俗・法令遵守・公正な事業活動
  - ③不適切な利益供与や受領を行わない
  - ④反社会的個人・団体との取引を行わない
  - ⑤会社法、独占禁止法、下請法や労働関連法規、環境関連法規など事業活動に適用される法令・条例・政府通達を遵守する
  - ⑥公益通報者保護法を遵守し、内部通報者の権利を保護する
  - ⑦輸出関連法規の遵守と事業活動を行う国・地域の法令を遵守する
  - ⑧児童労働・強制労働を行わない
  - ⑨特許権・著作権・商標権等の知的財産権を侵害しない
3. 情報の管理・開示
  - ⑩取引を通じて得た秘密情報、個人情報適切に管理する
  - ⑪事業活動内容、品質及び製品の安全性などに関わる情報の適時・適切な開示に努める
4. 環境と安全
  - ⑫環境負荷の少ない原材料・部品の使用に努める
  - ⑬環境負荷の少ない製造・加工プロセスの構築に努める
  - ⑭当社の指定する化学物質の適切な管理を行う
  - ⑮産業廃棄物の処理を適切に行う
  - ⑯労働災害を未然に防止し、安全で清潔な職場づくりに努めるとともに、緊急時の従業員の安全確保に努める
5. 品質の向上
  - ⑰当社の要求水準を満たし、品質の向上に努める
6. 適正な価格
  - ⑱市場競争力のある価格で製品・サービスを提供する
7. 安定供給
  - ⑲定められた納期を守り、安全・確実に供給する
8. 社会貢献
  - ⑳社会貢献に取り組む

# 環境への取り組み

将来にわたってあらゆる生命が存続できる持続可能な社会の実現をめざし、これまでの「凸版印刷地球環境宣言」をグループ全体の活動の基本理念「トッパングループ地球環境宣言」へと改め、より積極的にグループ全体で地球環境保全への取り組みを進めています。

## Feature : 3

### カーボンオフセット／カーボンフットプリント

#### CO<sub>2</sub>排出量ゼロ工場&オフィス

カーボンオフセットを活用し、(株)トッパンパッケージングサービス袖ヶ浦ビバレッジ工場および本社地区(秋葉原)オフィスビル群を「CO<sub>2</sub>排出量ゼロ工場&オフィス」とする取り組みを2009年度に実施しました。事業所から排出されるCO<sub>2</sub>排出量約7,600トン、排出権取引の一環として京都クレジット(CER)で購入、償却することで相殺しました。

#### カーボンフットプリントへの取り組み

製品・サービスのCO<sub>2</sub>排出量を算定・表示する「カーボンフットプリント制度試行事業(経済産業省)」において、2008年度より「出版・商業印刷

物(中間材)」および「容器包装」の「商品種別算定基準(PCR)」策定に参加しています。2009年度は、商品ごとのPCRに基づき算定に対応する社内体制を構築しました。

なお、冊子で発行している「TOPPAN CSRレポート 2010」のCO<sub>2</sub>排出量は、用紙やインキなどの原材料調達および生産段階のエネルギー使用量から算定をすると、1冊あたり460g-CO<sub>2</sub>になります(製版・印刷・製造工程を算定範囲とし、CO<sub>2</sub>排出係数はメーカーおよび業界団体の公表値を使用しています)。印刷物は用紙に起因するCO<sub>2</sub>排出量比率が高いことから、材料の少ない製品の開発および製造工程での材料使用量の削減に取り組んでいます。



袖ヶ浦ビバレッジ工場



CO<sub>2</sub>排出量オフセットオフィス認定証(左)  
CO<sub>2</sub>排出量オフセット工場認定証(右)



## エコガード活動

### 地球温暖化防止と省エネルギー

中長期環境目標である「2010年度における二酸化炭素排出量売上高原単位を、2000年度比10%削減」の達成に向け省エネルギー活動に取り組んでいます。

2009年度は、2008年度比で5%削減の目標に対して、結果は3.8%の増加でした。燃料転換や廃熱ボイラーの効率改善などに取り組みましたが、2008年度後半から2009年度前半にかけての大幅な受注量の減少、製品単価の下落が影響しました。

また、2000年度比でも10.6%増加しており、今後は設備の運用対策をさらに徹底し、省エネ機器の導入などについても積極的に取り組んでいきます。

### 大気汚染防止・オゾン層保護

ボイラーなどのばい煙を発生する設備の運転管理、VOC排ガスの処理設備導入などにより、大気汚染防止を徹底しています。

2009年度は、VOC大気排出量2008年度比10%削減の目標を設定しましたが、VOC排ガス処理装置の改修工事期間中の停止により、結果は11%の増加となりました。

また、オゾン層の保護のため、特定フロンを使用している設備は、法令に準じた管理を行いながら順次更新することを検討しています。

### 水質汚濁防止・土壌汚染防止

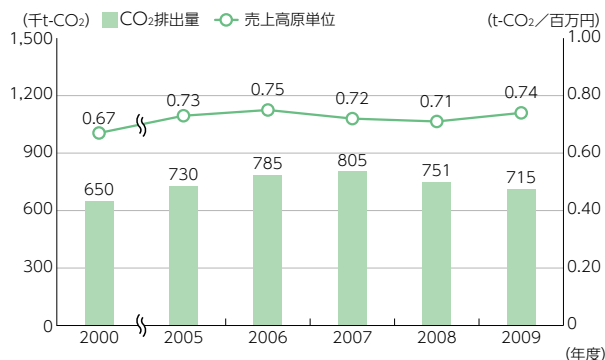
工程ごとに対応する排水処理施設や排水リサイクルシステムを導入し、水質汚濁の防止、取水・排水量の削減に努めています。また、2009年度は埋設配管や地下タンクの漏えいリスク評価を実施し、評価の結果に応じて地上化や更新等の対策を講じました。

### 化学物質の管理

PRTR指定化学物質の取扱量削減に取り組んでいます。2009年度は、取扱量を2008年度比で5%削減する目標に対して、8.1%削減できました。また、総移動量も6.7%削減することができました。

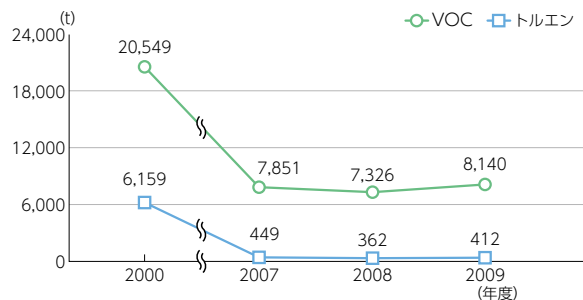
しかし、排ガス処理装置を改修工事期間中に停止させたため、トルエン排出量が増加し、総排出量は2008年度比で13.4%増加する結果となりました。

CO<sub>2</sub>排出量／売上高原単位の推移

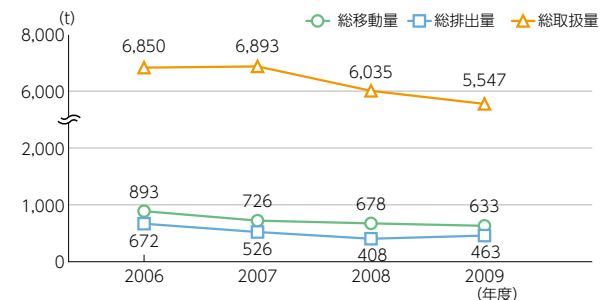


CO<sub>2</sub>排出量は、環境省の「事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン（平成15年）」に基づき算出しています。ただし、電気使用に伴うCO<sub>2</sub>排出量は、一律0.378t-CO<sub>2</sub>/kwhで算出しています。「特定排出者の事業活動に伴う温室効果ガスの排出量の算定に関する省令」（最終改正平成22年3月31日）を基に算出した場合、2009年度のCO<sub>2</sub>排出量は765,936t-CO<sub>2</sub>となります。

VOC・トルエンの大気排出量推移



PRTR指定化学物質量の推移



## エコクリエイティブ活動

環境配慮型製品や、お客さまの事業活動における環境負荷を低減するサービスの開発に取り組んでいます。環境配慮型の印刷方式や素材、国産間伐材を使用した紙製飲料容器・カートカン、安全素材を使用した電子部品、廃木材・廃プラスチックを再利用した建材など、事業領域ごとに製品を開発・販売しています。

また、事業活動に投入するエネルギー、資源および排出するCO<sub>2</sub>やVOC等による環境影響を把握し低減するために、東京都市大学の伊坪徳宏准教授の協力を得て、定量的かつ統合的に環境影響を評価できるLIME手法を導入しました。2006年度をベンチマークとし、統合化した環境影響指標に対する売上高を環境効率として継続的に評価を行い、その結果に基づき施策立案し、環境負荷を低減していきます。

2010年度は、この評価手法を食料品や家電の包装材から雑誌や書籍などの出版印刷物、液晶テレビの部材であるカラーフィルタ等、各事業分野の主力製品群の環境影響評価にも適用していきます。

## 環境コミュニケーション活動

情報開示、普及・啓発活動、対話などの活動を通じて、互いの理解を深めるとともに、環境保全に取り組む意識を共有する環境コミュニケーション活動にも積極的に取り組んでいます。

### 地域とのコミュニケーション

近隣の方々を事業所にお招きして開催する環境への取り組みをテーマとした懇談会をはじめ、見学の受け入れ、環境イベントへの参加、事業所ごとの環境報告書「サイトエコレポート」の発行・配布などを通じて、地域の皆さまとのコミュニケーションを行っています。2009年度は、32事業所・24レポートを発行しました。

### 社会とのコミュニケーション

トッパンの環境への取り組みを広く社会にご理解いただくために、国内外の講演会への講師派遣や環境展示会への出展を行っています。

また、トッパン小石川ビルにある情報コミュニケーションスペース・PLAZA21では、お客さま向けのトッパン独自企画の環境セミナー開催や、環境配慮型製品の常設展示を行っています。



「グリーン通帳」は脱塩ビの磁気テープの使用と布クロスから紙クロスへの変更によりリサイクル適性を向上させた通帳です。



「太陽電池バックシート」は、太陽電池パネルを長期間安定稼働させるための軽量かつ耐候性に優れた背面保護フィルムです。



近隣住民の体験学習



近隣懇談会



エコプロダクツ2009



サイトエコレポート

